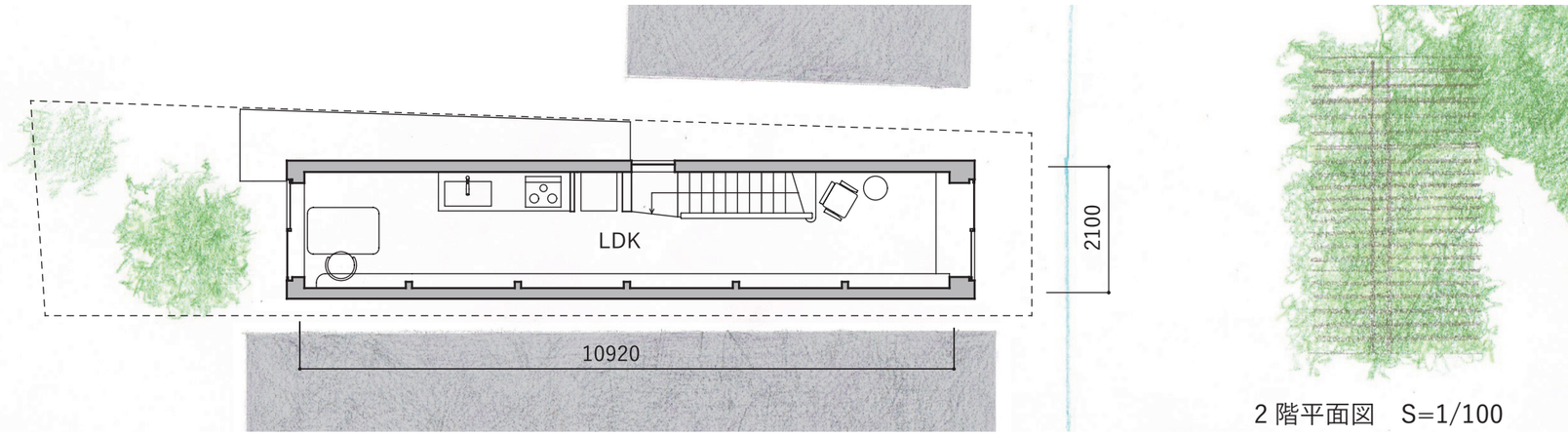
小径（こみち）のすまい ー単身女性と猫１匹のすまいー

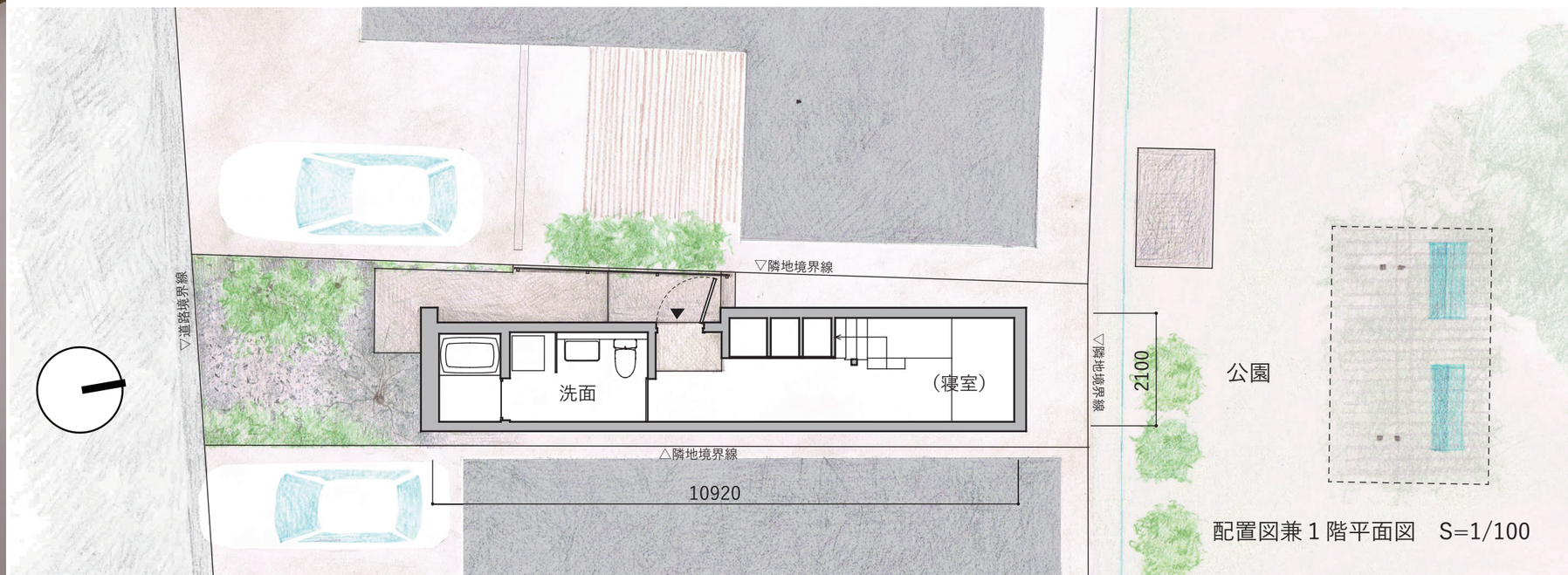
今後、住まいをどうするかを考えた折に見つけた小さな土地。「単身で、この資金で、家を建てることが可能でしょうか。」と相談を受け、計画が始まった。敷地の間口は道路側で 3.6m、奥に向かって 3.0m と小さくなっている 17 坪の狭小地だったが、南の前面道路は広く、北は公園に面しており開放感と借景が期待できた。この狭さゆえ長い間買い手がつかなかった空地は、一人にはちょうど良い小ささであった。ここを建主にとっての気持ちのよいすまいにしたいと考えた。

各隣家への配慮、施工性、継続的にメンテナンスできること（＝足場の設置）、防犯面の不安を解消する距離、駐車スペース、とそれぞれの境界から必要な「空き」を確保し、外壁後退を決めた。その結果、建物は幅 2.1m（内法 1950mm）、奥行き 10.9m の細長い矩形となった。道路に向かって微妙に広がる西側の「空き」利用し、アプローチを矩形の中央まで引き込むことで、動線を中央にまとめ、細長い空間の両端に「居場所」を確保した。また、街（前面道路）から少し距離をとり、緩やかに接続させるほうがこの建主には合っていた。周囲と健全な間合いを保つことで、長く住み、すまいを維持していけると考えた。

シンプルな骨格に、生活の手掛かりとなる少しの造作を設え、述床面積 14 坪の小さな家となった。アプローチから、1 階は静的な空間、階段を上がると道路から公園へと視線と風が抜ける、街からひと続きのシークエンスをもつ「こみち」のようなすまいです。



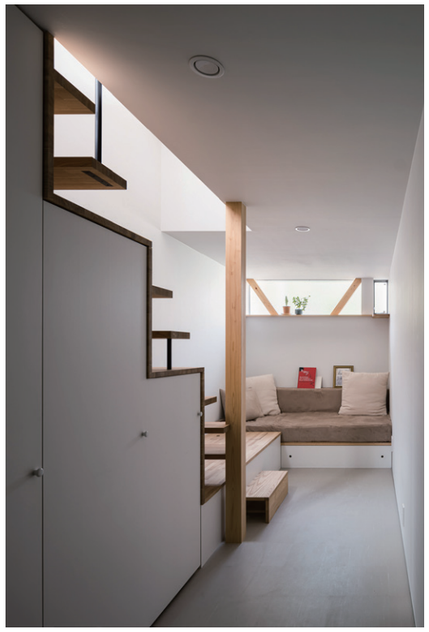
2 階平面図　S=1/100



配置図兼 1 階平面図　S=1/100

前面道路より見る。
道路側には、周辺の街路樹でよく見かける、さるすべりを植えた。

アプローチ。建物出隅から境界までは 850mm。
隣地の植栽はアプローチの借景になっている。



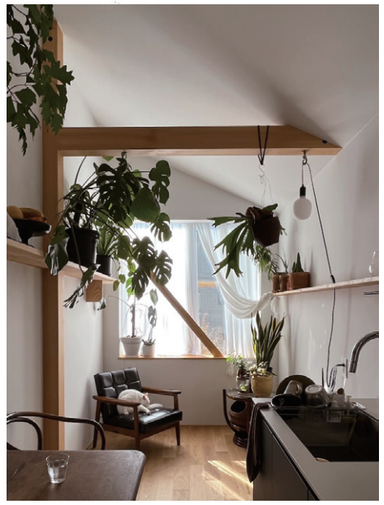
1 階の階段周り。収納とベットを一体的にし、
限られた気積を最大限感じられるようにした。

2 階キッチン＋階段を中央に配置した。北窓からは公園の緑が見える。

2 階は、道路から公園へと抜ける細長いトンネルのような一室空間となるように、短辺方向に視線を遮る要素を極力おさえた。

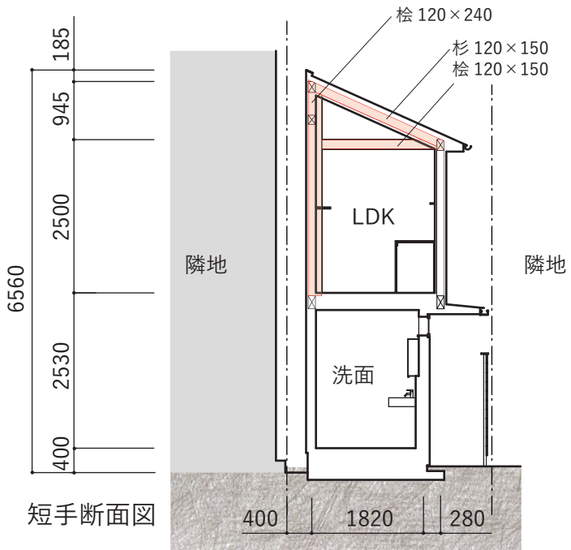
予算面では特殊な工法は避け、一般的な在来軸組工法と壁量計算、施工方法で成立させる必要があった。法的には必要最低限の壁量を確保した上、実質的にはラーメンのしくみを取り入れている。

桧 120×240 の扁平柱と水平梁＋上り梁で固めた三角形の架構を 1 間ピッチに入れることで、耐震性と耐風性を高め、全体に剛性をもたせている。

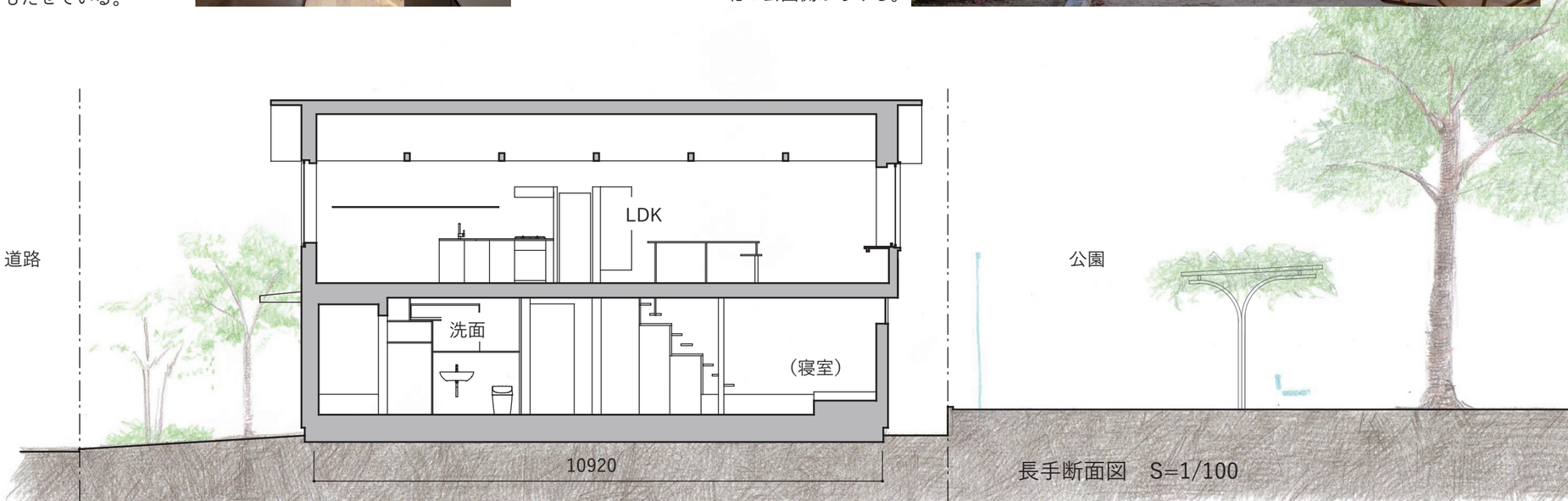


現在の生活の様子。 2 階の南窓を見る。
間口内法は 1950mm。
一人で暮らすにはちょうど良い間口で、
ダイニングテーブルや椅子、植物はそれぞれ季節の陽差しに合わせて移動させて生活している。

北の公園側からみる。



短手断面図



長手断面図　S=1/100